



なぜ、貯蓄だけではだめなの？

1

なぜ「貯蓄から投資へ」なのか？

総務省の消費者物価指数によると、令和5年1月の物価は、前年同月比で2.7%上昇しています。これは、仮に同じペースで物価が20年上がり続けたとして、**現在毎月20万円の生活をしている人が、10年後に同じものを買って同じ生活をしたくても26万円必要になっているということです。**一方、銀行に10年預けていても20万40円にしかありません。銀行に預けずに今使えば20万円は20万円分のモノやサービスと交換できるのに、銀行に預けていた20万円は20万40円にしかなくなっておらず、買えなくなっているという状態です。**物価の上昇に金利が追いついていないので、同じお金を使っても買えるものが少なくなっています。**つまり、何もせず普通預金に預けていても、お金の価値が減っているとも言えるでしょう。

急激に「貯蓄から投資へ」というキャッチフレーズと共に、資産運用の必要性が言われ始めてきました。

2

インフレとデフレについて

物価上昇は我々の生活にどのような影響があるのでしょうか。ここでは、インフレとデフレという言葉の意味を解説します。**インフレとは・・・**一般的には、景気が良い時に物価は上がります。景気が良い時はみんな沢山買い物をするので、人気のある商品の値段は上がり、その商品を作っている会社の売上や従業員の給料が上がります。またその従業員が消費者となり、買い物をし、再びモノの値段が上がるということを繰り返していく。これをインフレと言います。

デフレとは・・・景気が悪い時はモノが売れないので値段が下がります。スーパーのお総菜コーナーの余り物に、シールが貼られて値段が下がる状態です。供給に比べ需要が不足しているため、物が売れないから値段を下げ、売上が落ちるから価格や従業員の給料も下がり、従業員は使えるお金が減るため、必要最低限の物しか買わなくなります。これにより、再び商品は売れなくなり、値段が下がる状態を繰り返す。これをデフレと言います。

3

日本の物価上昇は良いこと？悪いこと？

では今の日本はどうでしょうか。今の日本の物価は上がっています。ただ景気が良いから上がっているのではなく、少子高齢化による人材不足が背景にあります。異常気象や原油価格高騰などの影響も受け、商品を生産する原価が上がっています。その結果、モノやサービスそのものの値段に転嫁され、物価が上がり続けているのです。不景気の影響を受け**給料は上がっていないのに、モノやサービスの値段は上がっているという状態**です。このように、不景気なのに物価が上がる昨今の状態を「**スタグフレーション**」と呼びます。さらに、今の日本で起きている物価上昇の原因の多くは、石油などの輸入品で、外国に所得が流れています。例えばガソリン価格が上がると、可処分所得が減って他のものが買えなくなるので貧しくなります。しかし、その**価格上昇によって儲かっている企業は、日本にはあまりないという状態**です。

POINT

解決策は1つ



さらに追い打ちをかけるように低金利です。このように不景気な時代では、人びとはお金を貯めて使わなくなります。世代によっては、大学費用や老後資金準備など、将来の自分への仕送りが必須となる方もいます。しかし、**そのように貯蓄しているお金は、低金利と物価上昇を考えたら価値が小さくなっている**のです。このような背景があり「貯蓄から投資へ」と言われるようになりました。iDeCoやNISAなどさまざまな税制優遇制度も整備されてます。資産運用はもはや我々にとって、切っても切り離せない存在となりつつあります。

まとめ

何もしないことがリスクな現代において、何か行動することが求められます。まずは、しっかりと「知る」ことから始め、目標をしっかりと設定し無理のない範囲で**なるべく時間を使った資産運用をおすすめします。**最後までお読み頂きありがとうございます。

- ・投資に関する相談
- ・相続に関する相談
- ・保険の見直し
- ・住宅ローンの借換
- ・結婚、出産等による環境変化の相談 etc.

お金に関するご相談何でも承ります。
大切なご家族様、ご友人様をご紹介ください。

著 者／中澤 賢一
保有資格／投資診断士 相続診断士
ファイナンシャルプランナー
MAIL／fp.nakazawa.kenichi@gmail.com
TEL／080-7359-4129